

「特別企画」 応募句一覧

(写真 I) 18 句



棚田ごと縁取り^{あや}彩に彼岸花 (渡邊孝)

曼珠沙華パレットに赤絞り足す (朱牟田静雄)

身を焦がし紅蓮^{ぐれん}群れ咲く曼珠沙華^{まんじゆしゃか} (玉置貞義)

やがてみな帰る日がくる曼珠沙華 (植松滋)

六道絵見ての帰りや曼珠沙華 (高橋康敏)

彼岸花老いの坂道墓参り (市村雅博)

瀬の音に駆け出し行けば曼殊沙華（白石寿太郎）

明日香路の夢の続きや曼殊沙華（白石寿太郎）

毒草と言え美しき曼殊沙華（土山勝實）

落日の広野を染める彼岸花（西脇修）

彼岸花母と素直に向き合へり（岡崎誠之助）

木漏れ日を浴びて燃ゆるや曼珠沙華（鳥飼直史）

一陣の風が急かせる冬支度（榎原等）

抜け道の畦一杯に曼殊沙華（大西公一）

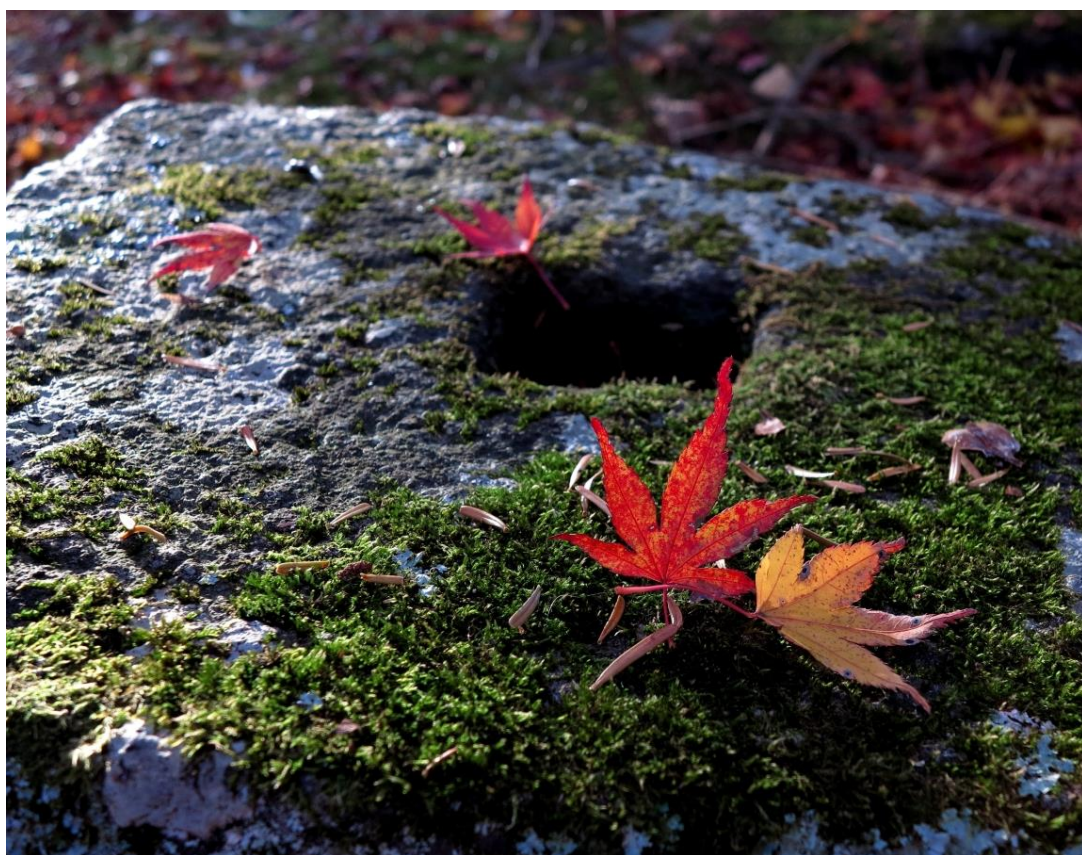
散々の地異ありてなほ彼岸花（長谷見敏）

生も死もまゝにはならず曼殊沙華（渡邊盛雄）

菩提寺の住職の死や曼珠沙華（山内了一）

曼殊沙華皆集まりし日もありぬ（中川雅夫）

(写真Ⅱ) 16句



木登りの子の目に近き紅葉かな (渡邊孝)

紅葉はらり借り来し賢治詩集より (朱牟田静雄)

ちりもみじしず
散紅葉閑かに季節は移ろいて (玉置貞義)

友逝きて肯いし時紅葉散る (植松滋)

紅葉散る法然院の蹲踞に (高橋康敏)

このモミジ記録的豪雨の生き残り (山崎節也)

明けの風紅葉はらはら石畳（市村雅博）

苔に合う散りし紅葉の陽射しかな（土山勝實）

苔岩にそっと寄り添う落ち葉かな（西脇修）

散る紅葉包む静寂や岩の苔（鳥飼直史）

温もりを残す天狗の捨団扇（榎原等）

冬紅葉散りゆくままの垢離場かな（大西公一）

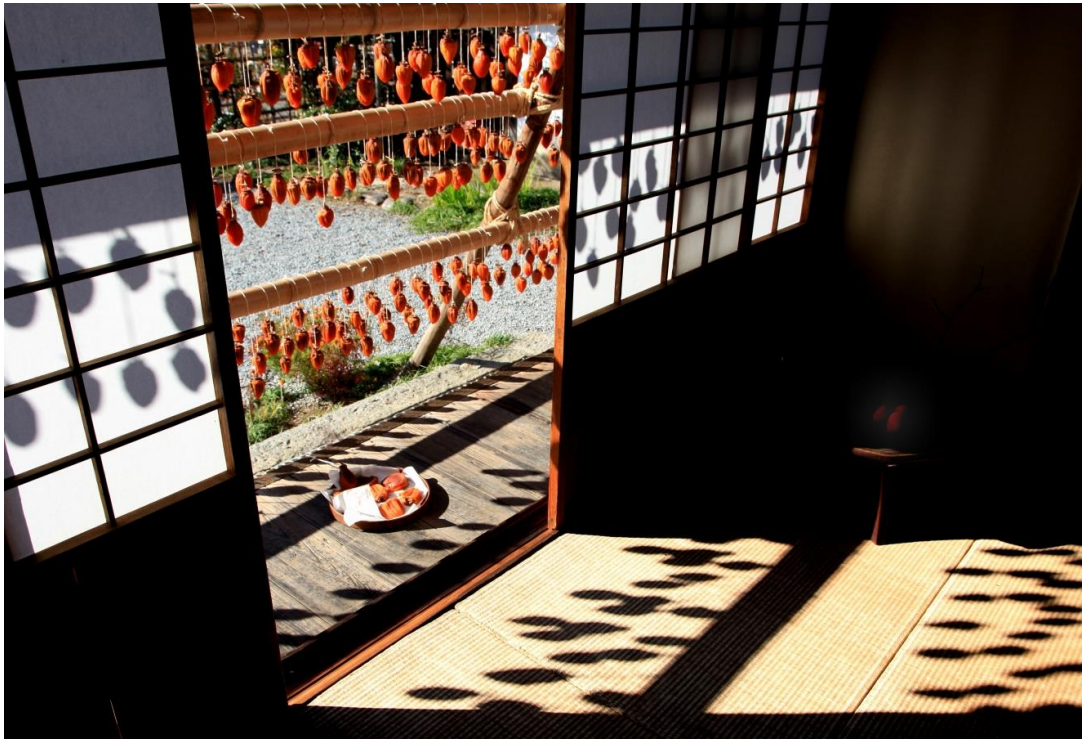
開山は宋の僧なり紅葉寺（長谷見敏）

結願に靈氣身に沁む高野かな（渡邊盛雄）

蹲ひに紅葉ひとひら躡り口（山内了一）

蹲居に色寄り会ひて夕紅葉（中川雅夫）

(写真Ⅲ) 19句



渋柿を吐いて立ち去る漢まことかな (渡邊孝)

駐在所裏が住居すまひや柿の秋 (朱牟田静雄)

ひだまりに連なる影やつるし柿 (玉置貞義)

晩秋の斜光を映す吊し柿 (植松滋)

ハヶ岳やつ晴れて村埋めつくす柿簾 (高橋康敏)

柿食えば小さき笑みの浮かび来る (白石寿太郎)

午後の陽が障子に映す柿すだれ (市村雅博)

吊るし柿影射す畳昼寝哉（土山勝實）

夕暮れに影を落としてつるし柿（西脇修）

吊し柿幼き頃の疎開先（岡崎誠之助）

柿を干す出雲路の日を大切に（岡崎誠之助）

秋尽くし腕突き出すや床の子規（榎原等）

禅寺丸庭に干されて誰を待つ（高橋邦夫）

柿すだれ遊び疲れし子が戻り（大西公一）

長き影母思い出す吊るし柿（鳥飼直史）

渋柿も皮剥も吊る蛸漁師（長谷見敏）

少年の母郷は白し柿すだれ（渡邊盛雄）

柿すだれ三縄はずしてもらひけり（山内了一）

干し柿の影こわがりし子もありき（中川雅夫）